

教育・研究業績書

講座名		
脳神経外科学		
<教員の紹介>		
教授	金 彪	講師 黒川 龍
准教授	河本俊介	
講師	荻野雅宏	
講師	川本俊樹	
講師	岡田義文	
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
参加型徹底のBSL	2004年5月～現在	BSL教育において、参加型の実習を徹底させ、学生たちに症例を毎日割り振り、新入院、検査、手術ならびに病棟入院中の患者の病歴、神経所見、ならびに画像検査所見、手術所見などを要約し、病態生理学と関連付けて総合的にプレゼンテーションさせることを中心とした教育をしている。毎朝のカンファレンスにおいて、学生たちはプレゼンテーションする。また、スタッフと会して、割り当てられた症例のレビューを行う。グループの中で毎日続け、お互いのプレゼンテーションから学ぶことにより、学生として習得すべき病態分野のほぼ全体をカバーすることができる。プレゼンテーションの準備のために、総合的な学習を行なうことが必要となり、積極的に学ぶ姿勢が発揮されるし、あいまいであった知識、理解も堅固となり、有意義な学習効果が得られている。またプレゼンテーションによるコミュニケーションの能力そのものもBSLの期間に大きく改善する効果を認めている。
細分野ごとの講義	2004年5月～現在	シラバスに沿って、学生として知らなければならない内容を過不足なく網羅して、BSLとも連続性のある内容の講義としている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
頚椎・頸髄ガイドブック 金 彪	2007年 メジカルビュー社	本来は、当教室に国内留学してくるフェローたちのために作ったマニュアル的なガイドブックであるが、学生に対しても脊髄神経学の診察をはじめとして、画像診断学ならびに解剖生理、結果解剖などをよく生理してあるので、学生の教材としてもよいものとなっている。
脳神経外科の基本手技一糸結びからクリッピングまで 河本俊介 永田和哉	2003年 中外医学社	脳神経外科の手術手技の基本を解説したもので、BSLの際に基本知識を前もってつけておくために有用な書物である。
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
脳神経外科学	教授	金 彪	大学院の研究指導担当資格 有
II 学会等および社会における主な活動			
<p>American Association of Neurological Surgeons Congress of 会員 (Interanational Member)</p> <p>Neurological Surgeons Member</p> <p>日本脳神経外科学会 国際委員会委員、用語委員会委員</p> <p>日本脊髄外科学会 会長 (2007年)、理事、統計委員会委員長、指導医・認定医・専門医選考委員</p> <p>日本脳神経外科コンgres 運営委員、査読委員</p> <p>日韓脊髄外科学会 会長 (2009年)</p> <p>韓国神経脊髄外科学会 名誉会員</p>			
III 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>和文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>金彪</u> (分担執筆) : 脊髄・脊椎疾患—転移性脊椎腫瘍 脳神経外科手術アトラス下巻p288-294、医学書院 2005. 2. <u>金彪</u> (分担執筆) : 脊髄・脊椎疾患—変形性頸椎症、脊柱管狭窄症、頸部脊柱管狭窄 脳神経外科アトラス下巻 p 334-342、医学書院 2005. 3. <u>金彪</u> (単著) : 頸椎頸髄のガイドブック、メジカルビュー社 2007. <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>Kim P</u>, Haisa T, Kawamoto T, Kirino T, Wakai S: Delayed Myelopathy Induced by Compression in the Rat Spinal Cord. Ann Neurol 55: 503 -511 ,2004. 2. <u>Kim P</u>, Murata H, Kurokawa R, Takaishi Y, Asakuno K, Kawamoto T: Myoarchitectonic Spino-laminoplasty. Efficacy in Reconstituting the Cervical Musculature and Preserving Biomechanical function. J Neurosurg Spine 7:293-304, 2007. 3. Okada Y, Ohno C, Ueki K, Ogino M, Kawamoto S, <u>Kim P</u>: Comparison of Numerical Change of Eepidermal Ggrowth Factor Receptor Gene among Pre- and Post-radiation Glioma, and Gliosis, and its Clinical Use. Brain Tumor Pathol24:15-18 2007. 4. Kim P, Joujiki M, Suzuki M , Ueki K, Amano Y: Newly Designed Ergonomic Surgical Binocular Telescope with Angulated Optic Axis. Neurosurgery 63 :190-193, 2008. 5. Kurokawa R, Nagayama E, Murata H, <u>Kim P</u>: Limaprost alfadex, a prostaglandin E1 derivative, prevents deterioration of forced exercise capability in rats with chronic compression of the spinal cord. Spine (in press) 			

和文

1. 金彪: 脊髄脊椎手術パンテール・リトラクタシステムの開発と使用経験. 脳神経外科速報 vol. 14, No1 P77-82 2004.
2. 河本俊介、金彪: 糖尿病における脳血管障害に対する外科的治療の対応 最新医学社 vol. 59, No1 P72-77 2004.
3. 荻野雅宏、川本俊樹、金彪: スポーツによる頭頸部外傷 脳神経外科ジャーナル vol. 13 No. 2 P96-103 2004.
4. 金彪: 世界企業の製品開発のラショナルと戦略 脊椎脊髄ジャーナル vol. 17 No. 4 14 巻第 7 号 P295-299 2004
5. 金彪、川本俊樹、朝来野佳三、高石吉将: 後方手術の合併症としての抵抗性頸部痛症例とその発生機構の検討. 脊椎脊髄ジャーナル vol. 17 p792-798. 2004.
6. 金彪: メーカー・ウェーデル社脳神経外科手術用顕微鏡Hi-R1000 の使用経験 脳神経外科速報 p 551-557. メディカ出版 2005.
7. 黒川龍、朝来野佳三、金彪: 腰椎・腰髄手術 p 184-191、ブレインナーシング 夏季増刊号 メディカ出版 2005.
8. 金彪、村田英俊、黒川龍、高石吉将、朝来野佳三、川本俊樹: 筋層構築的棘突起椎弓形成術myoarchitectonic spinolaminoplasty脊椎脊髄ジャーナル vol. 19 No. 11 p1139-1149. 2006.
9. 村田英俊、黒川龍、金彪: 非骨傷性頸髄損傷の症候の発生メカニズム: 実験データから 脊椎脊髄ジャーナル vol. 21 No. 5 p583-590, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Kim P: Osteolytic Tumor of the Th2 Vertebral Body, Causing Progressive Paraparesis in a 19-Year-Old. Neurosurgery of Complex Vascular Lesions and Tumors. 2006.
2. Kawamoto S, Matsuda H, Okada Y, Ueki K, Kim P: Neuromuscular choristoma of the oculomotor nerve: case report. Neurosurgery 60:777-778, 2007.

【総 説】

和文

1. 金彪、川本俊樹、朝来野佳三、岡田義文、植木敬介: 脊髄髄内腫瘍の診断と手術 脳神経外科速報 第 14 巻第 8 号 p737-750 2004.
2. 金彪: 包括評価、施設基準と脳神経外科. 日本脳神経外科の最新医療 p 319-322 2004.
3. 河本俊介、金彪: 脳動静脈奇形摘出術. 稲田英一 (編): 麻酔科診療プラクティス 第 16 巻 「これだけは知っておきたい術後管理」. 分光堂, 東京. pp158-161. 2004.
4. 金彪: 手術用顕微鏡の構造と特徴 脊椎脊髄ジャーナルvol 19 No. 3 p178-186. 2006.
5. 黒川龍、金彪: 脊髄血管障害 Clinical Neuroscience vol. 26 No. 11 p 1290-1292, 2008.
6. 金彪、黒川龍: 上衣腫 脊椎脊髄ジャーナルvol. 22 No. 1 p41-54, 2009
7. 金彪、黒川龍: 経皮的椎体形成術の適応・基本手技と応用一定位放射線治療との併用を含めて一 脳神経外科ジャーナル vol. 18 No. 2 p121-130, 2009

【そ の 他】

和文

1. 金 彪 (分担執筆); ここがききたい名医にQ、「首の痛み」 NHK出版、2009.

教育・研究業績書

講座名 脳神経外科学	職名 准教授	氏名 河本 俊介	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
日本脳神経外科学会 日本脳神経外科コンgres 日本脳卒中の外科学会 American Association of Neurological Surgeons	評議員		
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>和文</p> <p>1. <u>河本俊介</u>, 金彪: 脳動静脈奇形摘出術. 稲田英一(編): 麻酔科診療プラクティス 第16巻 「これだけは知っておきたい術後管理」. 分光堂, 東京, pp158-161, 2004.</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Kawamoto S</u>, Tsutsumi K, Yoshikawa G, Shinozaki M, Yako K, Nagata K, Ueki K: Effectiveness of the head-shaking method combined with cisternal irrigation with urokinase in preventing cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage. J Neurosurg 100:236-243, 2004.</p> <p>2. Shin M, Maruyama K, Kurita H, <u>Kawamoto S</u>, Tago M, Terahara A, Morita A, Ueki K, Takakura K, Kirino T: Analysis of nidus obliteration rates after gamma knife surgery for arteriovenous malformations based on long-term follow-up data: the University of Tokyo experience. J Neurosurg 101:18-24, 2004.</p> <p>【症例報告】</p> <p>欧文</p> <p>1. Maruyama K, Kawahara N, Shin M, Tago M, Kishimoto J, Kurita H, <u>Kawamoto S</u>, Morita A, Kirino T: The risk of hemorrhage after radiosurgery for cerebral arteriovenous malformations. N Engl J Med 352:146-153, 2005.</p> <p>2. Maruyama K, Shin M, Tago M, Kurita H, <u>Kawamoto S</u>, Morita A, Kirino T: Gamma knife surgery for arteriovenous malformations involving the corpus callosum. J Neurosurg (Suppl) 102: 49-52, 2005.</p> <p>3. <u>Kawamoto S</u>, Matsuda H, Okada Y, Ueki K, Kim P: Neuromuscular choristoma of the oculomotor nerve: case report. Neurosurgery 60:777-778, 2007.</p> <p>和文</p> <p>1. <u>河本俊介</u>, 佐藤貴英, 金 彪, 堤一生, 永田和哉: 椎骨動脈後下小脳動脈分岐部動脈瘤の手術成績. 脳卒中の外科 32:362-369, 2004.</p> <p>2. <u>河本俊介</u>, 金彪: 糖尿病における脳血管障害に対する外科的治療の対応. 最新医学 59:72-77, 2004.</p>			

4. 河本俊介, 佐藤貴英, 金 彪 : 硬膜輪近傍内頸動脈瘤手術における硬膜輪切開の意義. Video Journal of Japan Neurosurgery vol. 13, No. 2, 2005.

【総 説】

【その他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
脳神経外科学	講師	荻野 雅宏	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
<p>日本脳神経外科学会 日本脳神経外科コンgres 日本てんかん学会 日本臨床スポーツ医学会</p>			
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>和文</p> <p>1. 荻野雅宏, 石山直巳. 運動と外傷－頭部の外傷. 日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会(編): スポーツ医学研修ハンドブック. 東京: 文光堂, pp138-147, 2004.</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <p>1. Okada Y, Ohno C, Ueki K, <u>Ogino M</u>, Kawamoto S, Kim P: Comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and postradiation glioma, and gliosis, and its clinical use. Brain Tumor Pathol 24: 15-18, 2007.</p> <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>和文</p> <p>1. 荻野雅宏, 川本俊樹, 金彪. スポーツによる頭頸部外傷. 脳神経外科ジャーナル 13: 96-103, 2004.</p> <p>2. 荻野雅宏: スポーツと頭部外傷－頭部外傷 10 か条の提言－. 日本臨床スポーツ医学会誌 13: 164-173, 2005.</p> <p>3. 荻野雅宏: スポーツによる頭部外傷 知っておきたい脳振盪のマネジメント. 治療 88: 1742-1746, 2006.</p> <p>【そ の 他】</p> <p>和文</p> <p>1. くり返しには注意が必要 運動中の脳振とう. 共同通信 最新医療事情. 2004 年 11 月 30 日. http://kk.kyodo.co.jp/iryo/news/1130noushinto.html</p> <p>2. 運動競技中の脳振とう. 下野新聞 安心・けんこう. 2004 年 12 月 23 日 (ほか共同通信加盟紙多数)</p>			

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
脳神経外科学	講師	川本 俊樹	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
<p>日本脳神経外科学会評議員 日本脊髄外科学会指導医</p>			
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <ol style="list-style-type: none"> Kim P, Haisa T, <u>Kawamoto T</u>, Kirino T, Wakai S: Delayed Myelopathy Induced by Compression in the Rat Spinal Cord. Ann Neurol 55: 503 -511 ,2004. Kim P, Murata H, Kurokawa R, Takaishi Y, Asakuno K, <u>Kawamoto T</u> : Myoarchitectonic Spino-laminoplasty. Efficacy in reconstituting the cervical musculature and preserving biomechanical function. J Neurosurg Spine 7:293-304, 2007. <p>和文</p> <ol style="list-style-type: none"> 荻野雅宏、<u>川本俊樹</u>、金彪：スポーツによる頭頸部外傷 脳神経外科ジャーナル vol.13 No.2 P96-103 2004. <p>【症例報告】</p> <p>和文</p> <ol style="list-style-type: none"> 金彪、<u>川本俊樹</u>、朝来野佳三、高石吉将：後方手術の合併症としての抵抗性頸部痛症例とその発生機構の検討. 脊椎脊髄ジャーナル vol.17 p792-798. 2004. 金彪、村田英俊、黒川龍、高石吉将、朝来野佳三、<u>川本俊樹</u>：筋層構築的棘突起椎弓形成術myoarchitectonic spinolaminoplasty脊椎脊髄ジャーナル vol.19 No.11 p1139-1149. 2006. <p>【総 説】</p> <p>和文</p> <ol style="list-style-type: none"> 金彪、<u>川本俊樹</u>、朝来野佳三、岡田義文、植木敬介：脊髄髄内腫瘍の診断と手術 脳神経外科速報 第14巻第8号 p737-750 2004. 村田英俊、<u>川本俊樹</u>、朝来野佳三、黒川龍、金彪：頸椎・頸髄手術 ブレインナーシング 2005年夏季増刊号 メディカ出版 p173-183, 2005. 			

【その他】

和文

1. 川本俊樹：頸椎・脊髄損傷に対する急性期治療のガイドライン、アメリカ脳神経外科学会、アメリカ脳神経外科
コンgres 編、分担翻訳 メジカルビュー 2004.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
脳神経外科学	講師	岡田 義文	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
<p>日本脳神経外科学会代議員</p> <p>日本がん治療学会専門医</p> <p>日本脳腫瘍学会</p> <p>日本脳腫瘍病理学会</p>			
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <p>1. Megyesi JF, Kachur E, Lee DH, Zlatescu MC, Betensky RA, Forsyth PA, <u>Okada Y</u>, Sasaki H, Mizoguchi M, Louis DN, Cairncross JG : signatures in oligodendrogliomas. Clin Cancer Res.10:4303-4306,2004.</p> <p>2. <u>Okada Y</u>, Ohno C, Ueki K, Ogino M, Kawamoto S, Kim P: Comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and postradiation glioma, and gliosis, and its clinical use. Brian Tumor Pathol24:15-18,2007.</p> <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>和文</p> <p>1. <u>岡田義文</u>、植木敬介：神経膠腫の個別化治療 「脳腫瘍の臨床と治療」,日本臨床 63 巻増刊pp288-292,2005.</p> <p>【そ の 他】</p>			

教育・研究業績書

講座名 脳神経外科学	職名 講師	氏名 黒川 龍	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
<p>日本脳神経外科学会 日本脊髄外科学会 日本脊椎脊髄外科学会 日本脳神経血管内治療学会</p>			
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>1. 黒川 龍、河瀬 斌: Lateral suboccipital approach の手術手技. 山浦 晶 編, 脳神経外科学大系-principles and advances in neurological surgery-. 第3巻 基本手術手技、解剖、麻酔 中山書店、東京、pp148-155, 2005.</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Kurokawa R</u>, Uchida K, Kawase T: Surgical treatment of temporal bone chondroblastoma. <i>Surgical Neurology</i> 63: 265-268, 2005.</p> <p>2. Kim P, Murata H, <u>Kurokawa R</u>, Takaishi Y, Asakuno K, Kawamoto T: Myoarchitectonic spinolaminoplasty: efficacy in reconstituting the cervical musculature and preserving biomechanical function. <i>J Neurosurg Spine</i> 7:293-304, 2007.</p> <p>和文</p> <p>1. 黒川 龍、朝来野 佳三、金 彪: 腰椎・腰髄手術. 藤巻 高光監修 <i>ブレインナーシング</i> 2005 年夏季増刊: 脳神経疾患できるナースの術後管理Q&A. メディカ出版、大阪、184-191, 2005.</p> <p>2. 黒川 龍、金彪、村田英俊、川本俊樹、荻野雅宏、新郷哲郎、糸岐一茂. 慢性脊髄圧迫ラットにおける脊髄局所血流. <i>脊髄外科</i> 22:126-127, 2008.</p> <p>3. 黒川 龍: Side memo BMP. p. 50. 高安正和 編集. <i>脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎ステップアップ編</i>. 中外医学社. 東京. 2009.</p> <p>【症例報告】</p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Kurokawa R</u>, Tabuse M, Yoshida K, Kawase T: Spinal accessory schwannoma mimicking a tumor of the fourth ventricle: case report. <i>Neurosurgery</i> 54: 510-514, 2004.</p> <p>2. <u>Kurokawa R</u>, Kawase T. Spinal arachnoid cyst causing paraplegia following skull base surgery. -case report-. <i>Neurol Med Chir (Tokyo)</i>: 46,309-312, 2006.</p>			

【総 説】

和文

1. 黒川 龍、金 彪:神経疾患治療ノート 脊髄血管障害. Clinical Neuroscience 26,1290-1292,2008

【そ の 他】